

人間萬世虛誕計

特
13
833



嗚呼十世字大誓文。今日の天公もねむる大目を見
 そるりあつて。冥府の閻羅王もまげに舌を
 ぬりくと。續つら元る正月朔。其正月の葦市めどき
 とて。人固萬幸と外題を出し。去年は暮る九一年。
 看官紙一。例の作者が虚証計。さけど今
 年は歳き催促。羨客のふ説も紺屋乃明後日云
 場。是れはなぐ。其はなぐ。虚の様なる。即
 筆にまぐ。初編乃稿を脱。彼何の詞を想ふ
 に。虚を寔の骨。寔を虚乃皮といく。も虚ハ

なる呼實多なる程。

明治 三十七年 十月 十二日

坪内知女 氏寄贈

文化十年 癸酉 肇春 開市にせむやと 同九年
 壬申乃五月 江戸本町乃小築 欲心深處 尔
 筆を採

仙方延壽丹藥店

式亭三馬戲題

13 遠門
 833 號
 卷

藍庭晋米書

喜び良樂虚誕之略圖

商人のうそ



あつては虚

買人のうそ



とくのびる虚



とろかき虚



のうそ



あつては虚

金のうそ



あつては虚

物のうそ



びんぼうの虚



せんがうの虚



あつては虚

あつては虚

あつては虚

あつては虚



おんがの
うらやま
おんがの
うらやま

おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま

おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま

おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま

おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま



おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま

おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま

おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま
おんがの
うらやま

人間萬事虛誕計初稿標目

- 愛相乃好き虚
- 風雅と好む虚
- 老婆乃虚
- 空辭儀乃虚
- 昔自慢乃虚
- 女を嫌ふ壯夫の虚

通計六齣標目尾

傾城ふもまきとも有傾城の源社まほこの客乃好く 無名少人
梅小野 一 刻を千両の尺丈九尺ふこ二百ある六極の枝のうせ 鳥亭馬
山家鳥 まあさる世とちりそまを信の字ふまはけ存りともあけり 式亭三馬

江戸のあ

箱入
代平八箱入り
 式亭三馬 精製

あし

丹下...
 梅小野...
 山家鳥...
 式亭三馬...



丹下...
 梅小野...
 山家鳥...
 式亭三馬...



風雅人乃る也

不きナサくあがらむま
 くまよしトたまま
 トキニ主人ふあ
 奥方ちとを空
 こらちくハあても
 ころらせ
 あうしつのみ
 移入が解ごま
 アイあつハ
 十二てうらん
 あれうウニヤ
 いらあ
 てうらんか
 あらと
 かんのせ
 ああまご
 あしころるの
 けさちまふ
 十二てうらん
 つりあき
 アイそんろ



まのこゆ
 いらあ
 ああまご
 あしころるの
 けさちまふ
 十二てうらん
 つりあき
 アイそんろ

○雅人の虚

さうさふも男と女と... 山谷花草... 花のうてもあつて... 古雅な物... 園の印... 尾高如麟... 寛文のころ... 師の針の如く... 白雪柳絮...

さうさふも男と女と... 山田ちる... 刻本で... 雪見... 折角... 白雪柳絮...

新くうさむし。寒風をこらさう。ト 酔醒をこらさう。ト ヤ
 雪けうけけ後事成るるさうさむし。ト 不風虎何むし。ト
 ありのり。ゆかでもうくまふ。不風種をかきかあてる。ト ア一斤の粗
 世界。ト 南極成るるさうさむし。ト 奇終く。声ハ竹葉より傳あり。
 香ハ梅枝より遞至れ。塞外の征人凍甲成穿ち。山中の隠士
 寒衣を擁く。王孫綺席ふ。金尊成傾。義女紅爐ふ。黙炭を
 添ゆ。ト ぐぶむぐう。ト 成るるさうさむし。ト 少説本の切ぬき。ト 下
 るるさうさむし。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 たり。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 雅ふ。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 あり。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 ま。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。

あ。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 る。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 う。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 ろ。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 の。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 足。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 ま。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 と。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 足。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 推。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 潮。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 う。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 雪。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 せ。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 坊。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。

ま。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 ぞ。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 ま。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 ろ。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 の。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 足。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 ま。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 と。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 足。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 推。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 潮。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 う。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 雪。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 せ。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。
 坊。ト 成るるさうさむし。ト 俗物と。ト 何と云ふ。ト げうり。



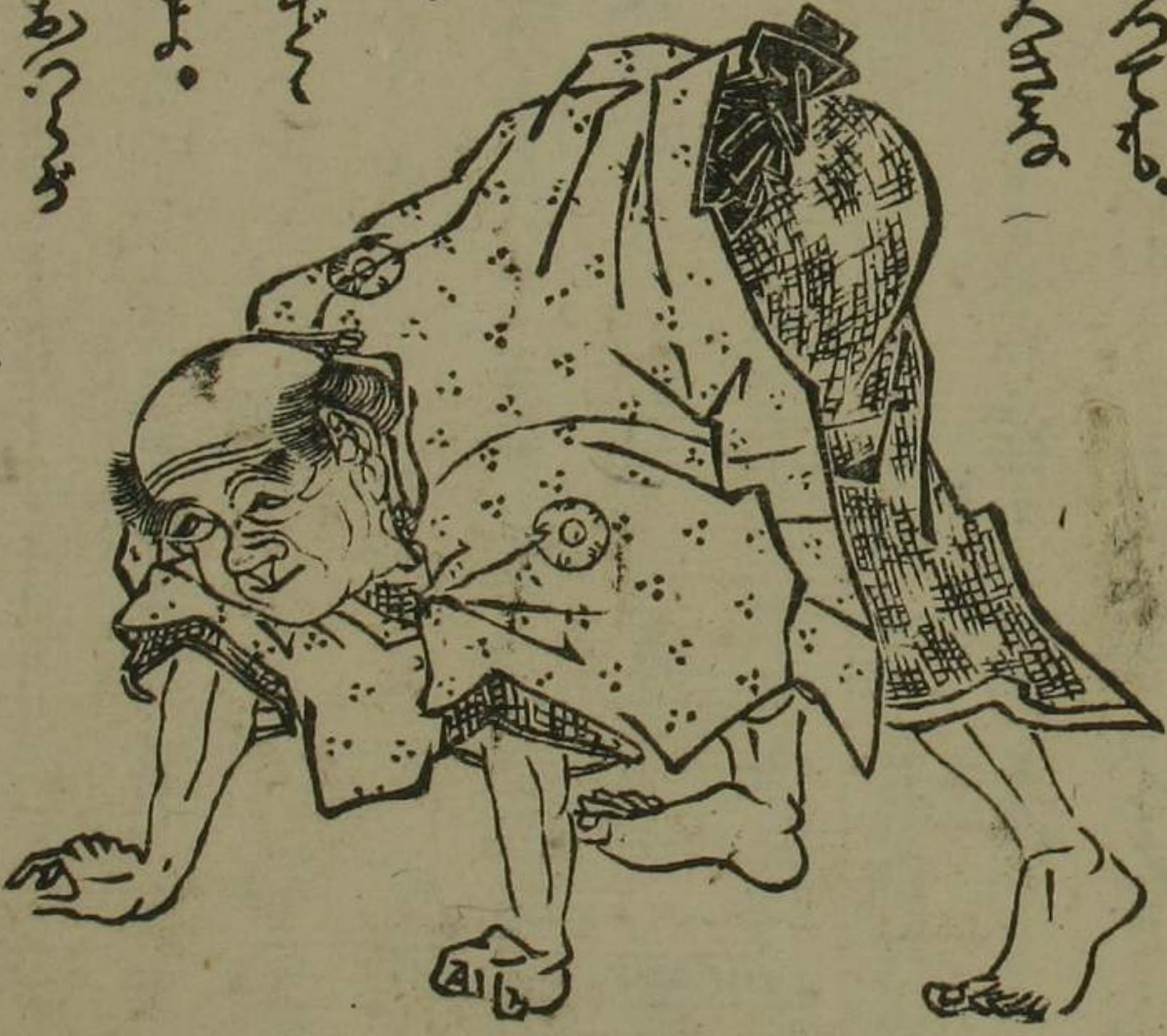
黄白老人

救国... 黄白老人... 孔方... 雪自... 同... たるのせ...

イヤ... 妙

昔自慢の虚

ナチ... 今... 山王... ち... ひ... 大... 同...



ま... かの... 今... ち... ね... 風... かく... ぞ... 中... ち...

ちんちんをりして猫追つらぬのがまかりつれ
 松をほして追つらぬけ其猫をやしとわれが持つてゐる
 骨董集の中いれざるつらぬけおた...
 其角が十年の積りの肉ふ糸町の猫通ひけり揚屋町といふ
 へん猫を通つておぼんのちんちんをとりて...

おめくちんちんハびび
 めのりてりて
 ちんちんちんちんが
 さうしねへのこ
 ま...
 めく...
 あ...
 ...

今今の母が...
 ...
 ...
 ...
 ...



...
 ...
 ...

金勢丸
 秘方
 秘 米包
 金 百文
 勢 五拾文
 丸 五拾文

酒の酔を...
 ...
 ...
 ...
 ...

箱入
 清茶はりの...
 袋入
 ...
 ...
 ...

家傳
 ...
小児
 百日せきの...
 ...
式亭三馬家製

めていふるをねてくさるる世人の世にまじりていふる因果の事
 それも同じく生運にあらぬ事なまじりていふる甲斐もわらん
 同様にいふる事なまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事
 ひろくしていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事
 どの事なまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事
 別々といふる事なまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事
 後万幸といふる事なまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事
 なる事なまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事
 アツるんまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事



龍樹散
 此散は... 秘方の良薬... 龍樹散... 秘方の良薬... 龍樹散... 秘方の良薬...

○女まじりの虚

コウ女乱えんおめ人も女まじり
 どの事なまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事
 さんまじりていふる事なまじりていふる事なまじりていふる事
 やうハ国をくまじりていふる事なまじりていふる事
 城をくまじりていふる事なまじりていふる事
 うららてくまじりていふる事なまじりていふる事
 国も激もめいれん人なまじりていふる事
 千あ地をくまじりていふる事なまじりていふる事
 まじりていふる事なまじりていふる事
 こまじりていふる事なまじりていふる事
 るまじりていふる事なまじりていふる事
 ゆまじりていふる事なまじりていふる事
 哲人何れもくまじりていふる事なまじりていふる事
 推ふまじりていふる事なまじりていふる事



うそをいふ人

まこと

「うそをいふのはよくない。おぼろげな
うそをいふのはよくない。おぼろげな
おぼろげなうそをいふのはよくない。
おぼろげなうそをいふのはよくない。
おぼろげなうそをいふのはよくない。
おぼろげなうそをいふのはよくない。」



人間萬事虚誕計後編叙
旨語を禁む法如道さえ濟度の
為す方便あり。まゝなる凡夫子
に以てしや。うそをいふ法未弥次郎
乃中。ポンと放屁中其をいふ。

實説の行達。言詞達也人情也。

實でもなく華でもなく。以て

大なる童戯人艶言文華也。

くもれに。批上平。溜も無怪也。

も。みん積。邪魔と成る反。

古を集言持ゆく者。作者根生枝。

元魂。二役無備の二世楚満人。今を

為。水まみと。名を改るもあらず。あは

中。敬を春水。溜も。泡も。他。

愛形也。彼の帝皇の集を綴。何れを。

まがらぶ 校合繪まがらぶよりしん淨書しんまで仕上るしん瀧亭しん
とら 鯉丈作とら空言とらのとらのとら後編とらと表とら
たい 題たい子たい知たいまたいさたいつたいうたい我たいのたい皮たい本たい所たい庵たいのたい名たいをたい
か 借かすかもかのか茶か平かのか皮かをかるか鹿かのか皮かとか明か
こ 白こ子こ見こゆるこ化このこ皮こ子こぬこ其このこ面このこ皮こありこ

しんのしんしんしんのしん作しん去しんよりしん拙しん筆しんのしん端しん筆しん
しんしんしんのしん作しん去しんよりしん拙しん筆しんのしん端しん筆しん
しんしんしんのしん作しん去しんよりしん拙しん筆しんのしん端しん筆しん

天保四癸巳しん始しんとしん孟陽しん

瀧亭鯉丈述しん 寫しん



人間萬事虚誕計第二編目次

○ 稽古所の吁詐

○ 奉公人請人の吁詐

○ 喧嘩の吁詐

○ 孀女の吁詐

○ 解和人の吁詐

○ 水茶屋の吁詐

○ 浮氣妾の吁詐

○ 利風流の吁詐

○ 町藝者の吁詐

嘘言の
 誓古所



は類の

くまろ

美艶

仙女香

はあ〜の

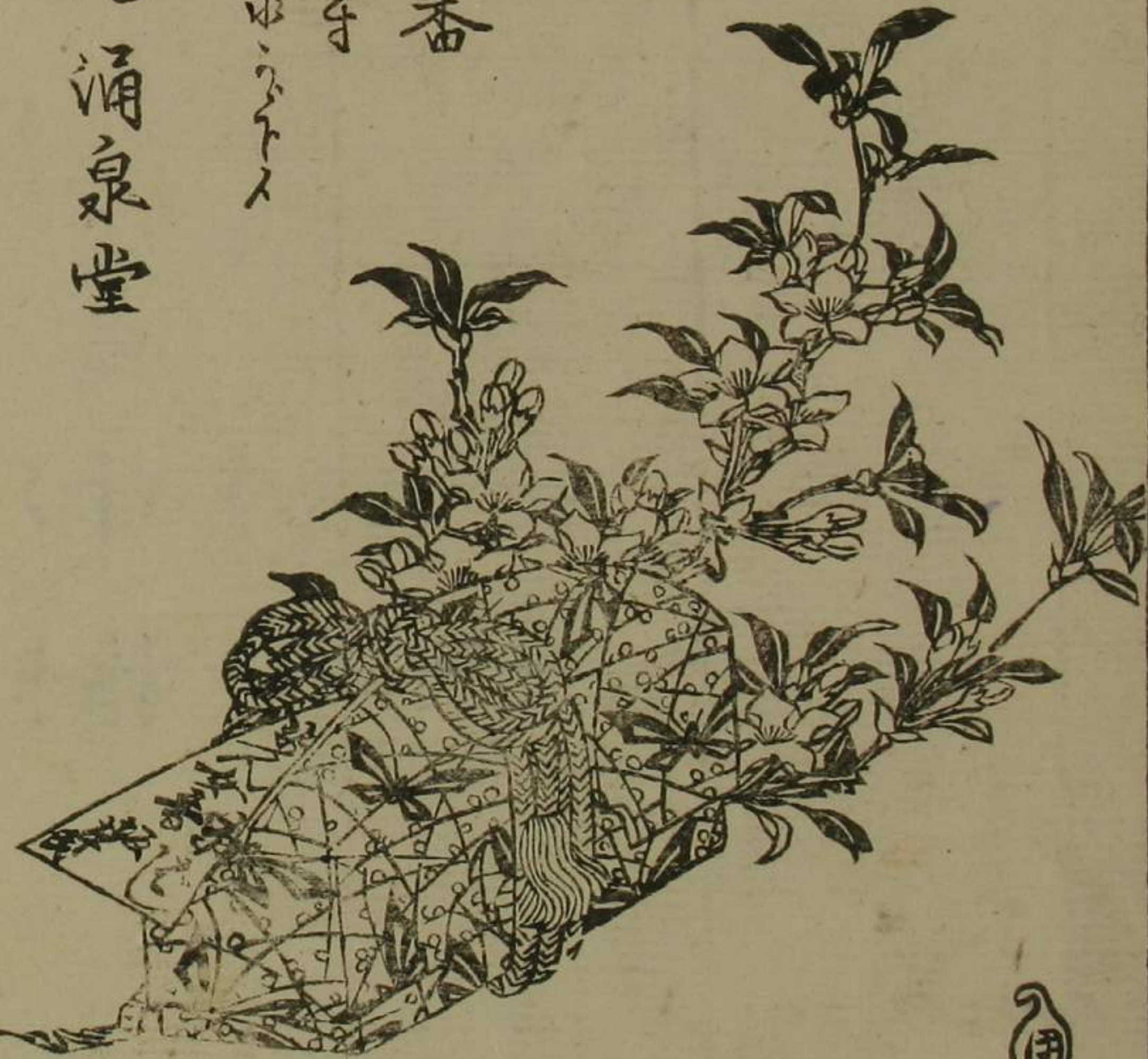
そら茶

黒油美玄香

女両帯の相つら〜

は野利の上茶〜

販元涌泉堂



田生

稽古所乃實演



かみかみのまじり

サカサマ早くみて舞ふまじり

間をえんれ長尻をわねれるウ。今夜ハ

急助さんぐまじああまう丸うらまじり

こらまじりへあまじりて間をえんの舞るまじり

あまじりあまじりあまじりあまじりあまじりあまじり

声ぞ津屋を後らうと思ひつゝの気がたれ福ハ

あの人を津屋を後らう福ハとせんあの人あまじりあまじり

あまじりあまじりあまじりあまじりあまじりあまじり

だのあまじりあまじりあまじりあまじりあまじりあまじり

あまじりあまじりあまじりあまじりあまじりあまじり

あまじりあまじりあまじりあまじりあまじりあまじり

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive script with various annotations.

Main body of handwritten text on the left page, written in a cursive script with various annotations.

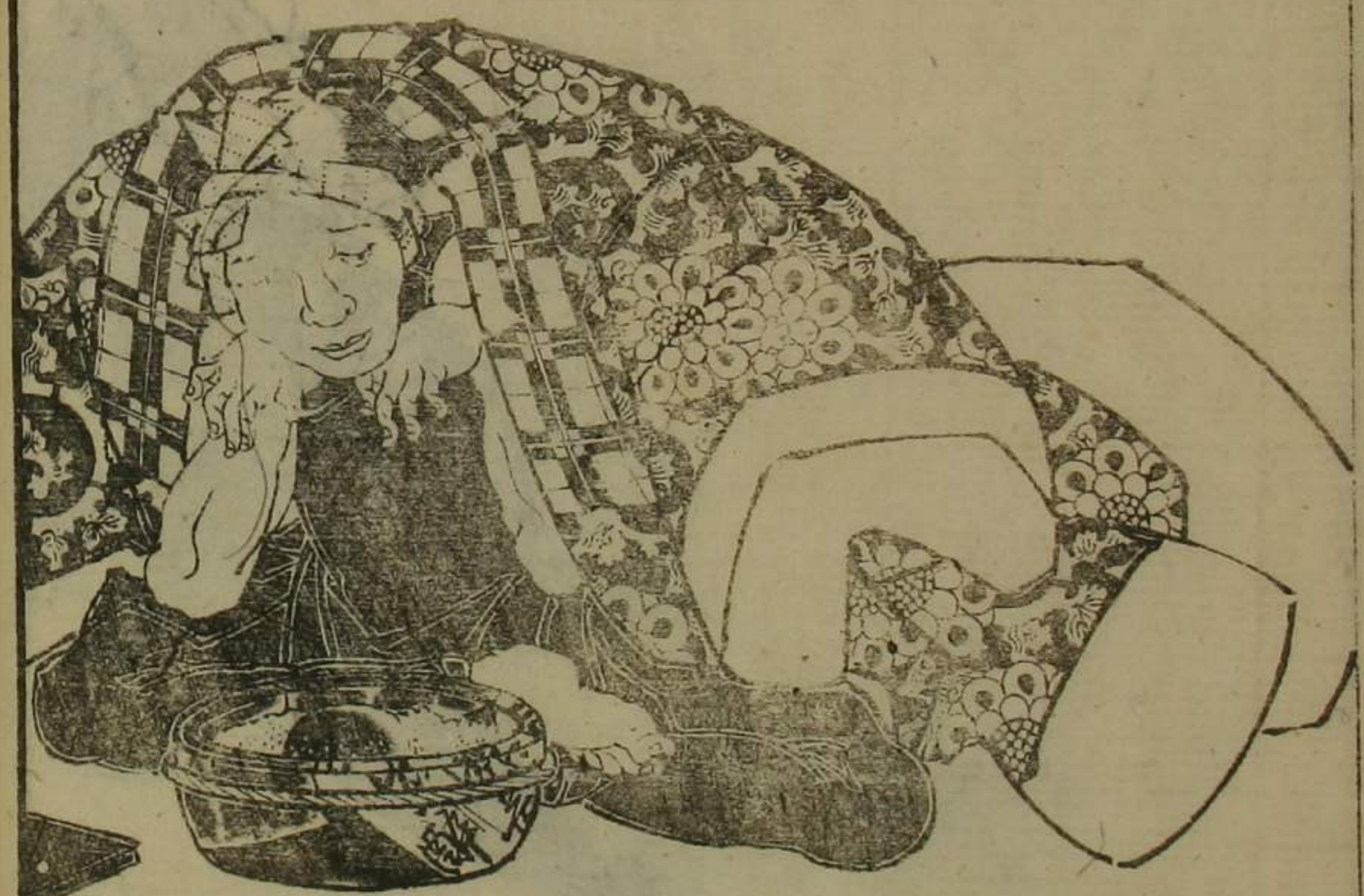
誼乃 呼詐



うそをいふなり

六

誼^ぎ嘩^{くわ}の
實^{じつ}意^い



。けん けん けん

可^かわ^わげ^げは^はな^なの^の時^{とき}角^{かく}も^もも^もも^も

ち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^ん

ち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^ん

ち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^ん

ち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^ん

ち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^ん

ち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^ん

ち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^んち^ちん^ん

取極人の呼詐



取極人の呼詐



取極人の呼詐

Main body of handwritten Japanese text in a cursive style, containing various characters and small annotations.

取極人の呼詐

11

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written vertically on the right page of an open book. It contains several lines of text, with some words appearing to be in a non-Latin script, possibly representing a specific dialect or a mix of languages. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written vertically on the left page of an open book. It contains several lines of text, with some words appearing to be in a non-Latin script, possibly representing a specific dialect or a mix of languages. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Vertical text on the left margin of the left page, possibly a page number or a reference mark.

Vertical text on the left margin of the left page, possibly a page number or a reference mark.

水茶屋に實言

下

。あちや屋のまはしむ

やんこれち今日早へけし毎思くてもく事ぞ盛と暮也二条の仕

切く年まぶらり目ももすの物う 燈花と茶は殊もたぬ人てぬく

連のよ言の置はあふまふた。兼代りまのちうあていあつあつへん

あしは舞へるもどしと廣小路の妻共ふんあふらふ。毎日ま日くえ

かひあひはかへん舞をさへんあふらふ。ゆもあふのよ。あふらふはあふらふ

あふらふはあふらふ。あふらふはあふらふ。あふらふはあふらふ

あふらふはあふらふ。あふらふはあふらふ。あふらふはあふらふ

あふらふはあふらふ。あふらふはあふらふ。あふらふはあふらふ

あふらふはあふらふ。あふらふはあふらふ。あふらふはあふらふ

水茶屋に實言



水茶屋に實言

下

利風流の噺言



利風流のついで

利風流のついで... 先生は生座より... 猿世界に巨権と云... 利風流は合を... 先生は生座より... 猿世界に巨権と云... 利風流は合を... 先生は生座より... 猿世界に巨権と云... 利風流は合を...

香蝶樓國貞画

二

人間萬事虛誕計第二編終

彫刀齋藤岩次郎

香蝶樓國貞画 瀧亭鯉文作

書肆



